第１０回タウンミーティングの意見交換内容について

■日　時：平成２６年１０月２２日（水）午後７時～８時４５分

■場　所：中央公民館ホール

■参加者：熊本市教育委員会（崎元委員長、森委員、田口委員、泉委員、岡教育長）、
市内在住者及び勤務者（３０名）

№	質問・提案・要望等	回　答	補　足	担当課
1	・給食費の未納について 以前よく新聞紙上で、給食費の未納者が多いという話を聞いていた。子ども手当から費用差引をすることもできるということだが、市として実施してはどうか。そうすれば、給食費をきちんと支払っている人とそうでない人の不平等も生じないし、未納給食費の徴収にかかる費用も浮くのではないか。	給食費の未納について、本市では、未納対応のマニュアルを策定し、各学校でその解消に取り組んだり、リーフレットを配布し、保護者に給食費の重要性をご理解いただくなどの取組を行っている。本市の平成25年度の未納の率は、このような取組を開始する前と比較すると改善している。 ご提案のあった子ども手当からの天引きについては、保護者の了解が必要になるため、今のやり方と基本的には変わらないことから、現時点では児童手当からの天引きというのは行っていない。 また、回収に係る人員の体制については、学校において教員が、未納者に対して、都度事情を確認し、給食費の重要性をご理解いただき、お支払いいただくという取組を実施している。なかなかご理解いただけない場合は、教育委員会としても、教育長名義で督促の文書を出しているという状況であり、給食費を専門に回収する職員というのを配置はしていない。〈事務局〉		健康教育課
2	未納者に対してのみ実施するのではなく、全員を一律子ども手当から控除されるようにしてはどうか。また、教員が回収を行っているのであれば、人件費は発生しているはずである。子ども手当からの引き落としが可能であるなら、それも発生しないのではないか。市の別の部門で出している経費から天引きすることは不可能なのか。	行政が子ども手当という別の趣旨で出しているもので、そこから給食費を天引きするということは、かなり議論が必要である。今はそういう方針ではない。〈委員長〉		
3	・腐葉土を作る取組について 私は子どもたちに食育の一環となればと思い、ボランティアで農地栽培をやっているが、一番大事なのは、土作りである。通気性・通水性のある土を作ることが非常に大事なことであり、土壌改良剤としての腐葉土を入れることが大事だと思う。そこで、学校では焼却できない落葉を腐葉土にする取組をもっと積極的に行えば、ごみ減量で地球温暖化対策の一助にもなると思う。学校では余り実施しておらず、実施している16校でも、落葉をただ積み込むだけで、腐葉化に時間がかかり、もったいないと思っている。話を聞くと、人手が足りないことが原因のようなので、その点について、地域のお年寄りに呼びかけて、協力要請してはどうか。	子どもたちが様々な機会を通して、環境教育に取り組んでいくのは大変重要だと思っている。その一環として、学校においては学校緑化を進めており、その中で落葉の堆肥化の取組をしている学校もある。ただ、地下水やエネルギーなど、環境教育といっても非常に幅が広い。そのような中、学校の状況や地域の環境等に応じて、それぞれの学校で様々環境教育に取り組んでいる。ただいま紹介があった腐葉土化については、時間や人の問題等でなかなか進まないという部分もあるだろうと思うが、環境教育としてはそれぞれの学校の特性に応じた取組がされているという状況である。〈教育長〉		指導課

№	質問・提案・要望等	回　答	補　足	担当課
4	竜南中学校は北区の清水小学校のほとんどが上がってくるが、清水小学校でも、5～6年前位に地域の社協会長さんと校長が一緒になって実施していた。その腐葉土は学校内の花壇や農園に利用されていたが、やはり手がいるというのが実情で、今は実施されていないのではないかと思う。竜南中学校は、2～3年位前から環境に力を入れられる校長先生いらっしゃいましたので、今も引き続き環境美化に取り組んでおり、場所を設けて堆積しながら活用をされている。			指導課・学務課
5	私は学校ボランティアに当初から登録しているが、いつの間にか立ち消えになっているような感じがする。学校からの要請がないので、無くなったのかと思っていた。今もあるのか。	学校ボランティア制度は現在もある。学校に任せている部分があるので、教育委員会から細かい指示はしていないが、機会があったら是非よろしくお願いしたい。〈委員長〉		
6	・中高生の自転車マナー、モラルの向上について 政令市になって、市の教育委員会は県の教育委員会から独立したとのことだが、市の教育委員会と県の教育委員会とは、何か打ち合わせ等を行うのか。市内には高校が多数あるが、県立高校については市の教育委員会は直接関与できないのか。	県市の教育委員同士は、年に1度情報交換をし、議論をする場を持っている。また、高校についてはお見込みの通りである。 〈委員長〉		健康教育課
7	・その打合せで是非言っていただきたいことがある。熊本市の交通事情は、車優先であり、また、歩道は人が安全に歩けるところだと思うが、自転車が走っており、歩行者が危険である。自転車は車道を行く呼びかけもされており、高校生の通学時に関して、その点を指導していただきたい。	これは全国的な問題だと思う。自転車に関わる事故が多いということも全国的な問題で、ご指摘の点と方向が違うかも知れないが、ある市では、自転車に関して、強制的に保険をかける条例を作るなど、対策を講じている。歩道をどういうふうに使うか、自転車はどこを走るかという指導はきちんとやっていかなければならないと思う。そのようなことをやっていないわけではないが、うまくいっていないというのが現実だと思う。 また、モラルの向上という点では、学校、あるいは教育委員会だけではなくて、家庭も含めて取り組むべきであるとのご指摘もあるが、この点について本日お集まりのPTAの皆さんはどのようにお考えだろうか。この問題は、警察等と連携をとらないと解決は難しい問題だと思う。〈委員長〉		

№	質問・提案・要望等	回　答	補　足	担当課
8	・いじめについて いじめについて今どのような取組が行われているか、また、先生たちは昔に比べて忙しくなっており、子どもに目が届きにくくなっていると聞くが、先生たちはいじめの実態をどの程度、どのように把握しているのか。	本市では、昨年、国の「いじめ対策基本方針」に基づき、市の「いじめ防止基本方針」を策定した。この方針では、いじめの「未然防止」、「早期発見」、「早期対応」が重要であること、また、それをしっかり支えるためには学校、家庭、地域の連携、更には関係機関との連携が必要だということをその中で掲げている。また、各小中学校全てで学校におけるいじめ防止対策方針を作っており、いじめを発生させないためと、発生した場合に対処するため、校長を中心として、専門家を入れた組織を作るようになっている。そのような形でいじめの防止に向けて、市を挙げて、また地域を挙げてやっていくということで進めている。〈事務局〉 いわゆるセクハラ、パワハラなど、大人の世界にもいじめがある。このように社会全体でもいじめがあるという現実の中で、学校だけいじめがない世界というのは、現実問題としてなかなか難しいと思う。そういう意味では、私達は学校にもいじめはあるという前提で取り組んでいかなければならないと思っている。そこで、今、どう対応しているかというと、やはり個々の先生が、子どもとしっかり向き合って、子どもの様子を日々見ていくということが大事だと思う。学校では、「きずなアンケート」を一月に一回実施し、子どもの様子を把握し、また教育委員会でも年に一回アンケートをやっているが、これは補助的な方法である。やはり直接先生たちが子どもの顔を見て、子どもの人間関係を見て、発見をし、早急に対応していくということが必要だと思っている。私はいじめはなくならないが、それを早く手を打って対応することによって、子どもにとっては人間関係についてどうあるべきかということを学校の中で学ぶ、学びのひとつだと思っている。〈教育委員〉 今問題となっているのが、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を使ったいじめが起きているということである。これはいじめの発見も難しく、問題だと思っており、これに対処すべく努力をしているところ。情報伝達の方法の進歩の影というか、子どもたちの方がそのようなものを使いこなす技術には長けているので、問題が起きたときに対応が追いつかないという状況がある。これも学校と家庭と、子どもたち生徒と連携して考えていかなければならない問題だと思っている。〈委員長〉		総合支援課
10	個性のある子どもの育成について、個性のある子ども、リーダーシップのある子どもを育てていくためにどのような取組を行っているか。	学校の中では、勤労体験や職場体験、ナイストライ事業や自然体験、幼児と高齢者との交流体験により、豊かな心をはぐくむということをやっている。また学校キャンプ、生徒会活動や部活などでリーダーシップが養成されると考えている。アメリカの教育などでは、個性を尊重するということが表に出てきていると思うが、日本では、個性を尊重するような取組が進められてはいるものの、全体で同じ行動をするという教育がまだ残っていると思っている。〈委員長〉 アメリカでの子どもたちの成長の様子を見たことがあるが、個性を出していくということは、それと同時に、他人が個性を出すときにそれを受けいれる力も必要になると思う。 日本の中では、個性をどう定義するか次第で、個性を積極的に出していくことが、却ってその子どもにとって辛くなるようなこともあると思う。だから、その文化に根ざしたバランスの良い成長の中で、その子どもたちが持った特性や特技を伸び伸びと出せるような環境が必要だと思う。そういった意味では、相手のことも受け入れる、自分のことも出せる、そういうような土壌を醸成していくというか、そういったことを学校として心がけていくことが大切ではないかと思う。〈教育委員〉 個性というのは、定義が難しい。また、どの年齢で個性を認めるか、人格形成がされていない中では個性ではなくて、単なる我侭ではないかなど、様々な考え方がある。ただ、今学校では、自分の考えをきちんと言えるようになるような教育がなされており、授業の中でも、机を動かして丸になったり、二人ずつ向き合ったりして、議論をし、自分の意見を発表するといったことがどんどん行われているので、自分の意見を言うことがだんだんできるようになる。そのような中で、「この人は、このことがすごくできる」ということであれば、それを褒めて伸ばすなどといったことが、家庭でも行われ、学校でも行われていくという過程で個性が伸びていくのではないかと思う。〈委員長〉		指導課

№	質問・提案・要望等	回　答	補　足	担当課
11	回りには迷惑をかけてはいけない、迷惑をかけたら謝らなければならないが、その行動が理屈に適ったものであれば、認めてあげるというようなことも大事だと思う。そういった考え方で教育を行っていただけたら、と思う。			指導課
12	・小中高の連携について 熊本市内にはたくさんの小中学校があり、高校もある。それらの学校は、集約しているので、小中高が連携して、社会奉仕やボランティア活動などを行うことを通じて、小学生が中学生の姿を見て将来の自分の姿を自覚するなどの効果があると思う。そこで、年に1度でも良いので、小中高が連携した、児童生徒が主体的に地域を活性化していくような活動が今後望めるのかをお伺いしたい。	富合では、小中一貫教育を実施しており、そこでは中1ギャップの解消と、英語教育の充実を図っている。英語教育に関しては、中学生が小学生に教えるなどの取組も行われている。また、市では「幼小中連携の日」というのが設けられており、幼稚園、小中学校相互での授業参観や情報交換、体験入学や合同研修会が行われている。 このように地域、あるいは保護者も協力して連携を行うという日を設けて、連携を推進しようとしている。今後、小中一貫教育校や、既に私立には多いが、中高一貫教育校が増加していけば、ご指摘のような先輩に触れるということができると思うし、もっと積極的な活用の仕方というのがあると思うが、まだまだこれからだと思う。〈委員長〉		指導課・教育政策課
13	小中の連携は、既にある程度実施されていると思うが、高校生を含めた連携を増やして欲しいと思っている。これにより、高校生の社会人としてのマナーも身につくし、モラルの向上にも繋がっていくと思う。	ご質問の趣旨に正確に合致はしないが、子ども議会の中では、各中学校の代表が様々な市の事業に対して質問や提案をするが、その中に、先輩として高校生が入り、アドバイスをしながら、熊本市を良くするためにどういったことを進めていくかという議論を進めている。また、小中学校で「子どもフォーラム」という事業を展開している。これは、地域の方々も含め、子どもたちが、自分たちの住む地域をいかにより良くするべきかということで、様々な提案をするような事業である。その中では、地域に住む高校生等も含めた、子どもたち全体で何かできることはないかということで、清掃活動などの提案をし、取り組んでいるということも聞いている。また、以前は、ジュニアリーダーという、子ども会出身の高校生が、地域の子ども会において小中学生を指導するといったこともあったが、そのような形での展開を地域の中でできないかと思っているところである。〈事務局〉		

№	質問・提案・要望等	回　答	補　足	担当課
14	・エアコンの設置等について 竜南中学校は、西日と朝日がよくあたり、教室の温度が40℃を超える。その中で子どもたちが一生懸命勉強しているが、家と学校の環境に大きなギャップがある。PTAや学校の先生で様々な検討を行ったが、費用が相当かかるということで、実現できなかった。今後、各学校の各クラスにエアコン設置など、予算の関係もあるだろうが、考えていただけないだろうか。 また、グラウンドについて、アメリカなどは芝生を植えている。緑を植えることによって、環境美化にもなり、照り返しもない。維持管理については、地域には高齢者の方など、何か学校のためにやりたいという方がいらっしゃるので、その方々を募って行ってはどうかと思う。確かに学校に出入りする人が増えると、不審者対策も必要になると思うが、地域活動をしている方々の顔はその方々同士が一番よく知っており、不審者に気づくのはそういった方々だと思う。このようなやり方で行うと、学校と地域との交流も深まると思う。 もう一点、竜南中学校は中央区にあるが、ほとんどの生徒は北区の清水小学校出身である。保護者にとっては土地勘のあまりないところに子どもたちが毎日通っており、市内でも珍しく登下校時に電車を使っている学校である。一般的に、校区単位という話になると、小学校校区単位になる。防犯等の面では、中学校区単位で考えていただけると、よりよい連携が取れるようになるのではないかと思う。	エアコンについては私たちも検討していかなくてはならないと思っている。かなりの予算がかかるようなので、まずは現状の把握を調査してからだと思うが、是非推進したいと私は考えている。また、今いくつか提案いただいたことは非常に良い提案だと思うので、今後考えていきたいと思う。結局皆子どもが社会人になるということを目標に考えていると思うので、先生が多忙だということもあり、それも緩和しなくてはいけないと感じており、様々な形で地域の方々と力を合わせて学校をサポートしながらやっていかないといけないと思う。〈教育委員〉 我々は保護者、市民の代表なので、エアコンについては、同じ感覚でいる。ところが、一方では予算の状況も聞いているので、なかなか難しいということも理解はしている。教育委員会としてもそういう計画を立てようということになると思う。全教室にエアコンを入れるということになると、学校を2つ新設するくらいの予算規模が必要になるので、今は特別支援学級や音楽室から整備している。今後、整備が一気には進まないかもしれないが、その方向で進んでいくだろうと思う。 運動場の芝生について、ある外国人に、日本はこれだけ富んだ国なのに、運動場が裸なんだと言われたことがあるが、確かに、なぜ芝生にしないのかと思う。おそらく経費の面、維持管理の大変さ、そういったことが課題だと思うが、今ご提案あったように、地域の人たちがそれを手助けしていただけるという形が明確にできてくれば、子どもたちももっと元気に遊べると思う。 校区を中学校区単位で捉えるということは、一方で多くの問題も出てくると思う。今のところは小学校区単位で基本として様々なことをやっているが、それでは解決できない問題もあるというご指摘だと思うので、今後の課題にさせていただきたい。〈委員長〉		施設課・教育政策課